

# DNA通信

《内容》 広がるRNA操作とその危険性 / 鏡像生命体のリスクに立ち向かう——提言を読む / 地球温暖化防止のウソ・ホント / その他

●シンポジウムのご案内（詳細は9頁をご覧ください）

■テーマ：731部隊・石井四郎とは何者か？

■報告：阿部海さん

■日時：2025年12月4日（木）午後13時30分～16時30分

■場所：東京ボランティア市民活動センター会議室A

飯田橋駅セントラルプラザ10階

■資料代：300円

NO.169 2025年11月21日発行



DNA問題研究会

e-mail : d\_monken@yahoo.co.jp

<https://dnamondaiken.wixsite.com/mysite-3>

〒191-0061 日野市大坂上3-21-18 洪方

郵便振替：00140-8-605520 年会費：3000円

## 鏡像生命体のリスクに立ち向かう——提言を読む

2024年12月12日号の科学誌『サイエンス』(Science)誌上に「鏡像生命体のリスクに立ち向かう」と題する提言が、38名の学者の連名で発表された。筆頭著者は、ミネソタ大学の合成生物学者カタリナ・P・アダマラで、ジョージ・チャーチ(ハーバード大学)やジャック・ジヨスタック(シカゴ大学)ら、世界的な遺伝学者、合成生物学者らが名を連ねている。あのヒトゲノム解析競争で世界に名を轟かせたクレイグ・ベンダー(クレイグ・ベンダー研究所)の名もある。9月の定例会では、この提言の詳細をテキスト(Science2024.12.12をDeepL.comにより機械翻訳したもの)に沿って報告した。

\*

この提言は、鏡像細菌が創出される前であるいま現在、その危険性を幅広く検討した結果、創出してはならないと訴えているものだ。人工生物を作ろうとする合成生物学の界限で、「鏡像生命体(ここでは鏡像細菌を想定している)」を実験室内で、人工的に作ろうとする研究が世界で進行中である。この生物には現在の地球上の生物および生態系を脅かす危険性を秘めているので、この試み自体を停止しようという呼びかけているのである。

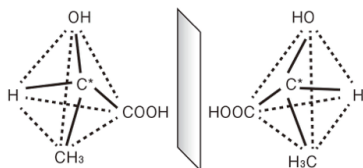
——一部の研究者は鏡像対称の生物分子のみで構成される生命体の創出に向けた研究を開始した。こうした鏡像生命は既知の生命とは

根本的に異なるものであり、その創出には慎重な検討が必要である。鏡像生命体の創出技術の完成は少なくとも10年は先の話であり、それには巨額の投資と技術的飛躍を必要とする。したがって我々には、リスクが現実化する前に検討し予防する機会と時間とがある。本稿では、現行の技術的障壁の詳細な分析、技術進歩による障壁の解消可能性、そして我々が前例がなくほぼ見過ごされていると考えるリスクについて考察する。我々は、世界的な研究コミュニティ、政策立案者、研究資金提供者、産業界、市民社会、そして一般市民の間でより広範な議論を行い、適切な前進の道筋を策定するよう呼びかける。

◎ 鏡像生命体とはなにか

「鏡像生命体」という、聞きなじみのない言葉について、少しだけ解説する。現存する地球上の生命体に対して、構成成分がすべて鏡に写したような「鏡像異性体」分子によってできている生命体ということである。

図を見ればお分かりのように鏡像異性体とは、構造式はまったく同じなのに、原子の空間的な配置が異なっている分子のペアのことをさしている。これらペアは互いに鏡像の関係にあるが、重ね合わ



鏡像異性体とは(乳酸を例に)

上の図は乳酸の立体図である。中央に置かれた鏡に対して、左右の乳酸は鏡に写した関係にある(鏡像の関係にある)。分子式は(C<sub>3</sub>H<sub>6</sub>O<sub>3</sub>)、分子量などはおなじだが、鏡に写した左右の分子を、互いに重ね合わせることができない。一方をL型乳酸、他方をD型乳酸とする。生き物が利用しているのはL型である。

せることはできない。例えば、右手と左手は鏡に写した関係だが、ぴたりと重ね合わせることができない。鏡像異性体は物理化学的な性質(沸点、融点など)はほぼ同じだが、生物の体内では全く異なる作用を示すことがある。医薬品では、サリドマイドのように鏡像異性体の一方には有益な効果があり、他方には有害な効果が示されることがある。

たとえば二十数種類のアミノ酸のほとんどに鏡像異性体がある。人間の体は一方の(L型の)アミノ酸できている。筋肉も酵素もあらゆる体内のタンパク質はこのL型アミノ酸できている。核酸にも、糖にも鏡像異性体があるので、タンパク質やDNAやRNAや脂質にも鏡像異性体がある。その結果、DNAとRNAは右巻きヌクレオチドで構成され、タンパク質は左巻きアミノ酸で作られている。今回の提言を考えるにあたっては、L型、D型などの言葉はひとまず置いておいて、地球の生命はすべてどちらか一方で作られているということが重要なので、これ以上は立ち入らない。

もう一度確認すると、鏡像生命体とは、体の部品(分子)がすべ

て現在の分子の鏡像できている生命体のことである。

#### ●鏡像細菌はできるか

鏡像人間ができるのは当分先のことであろうが(百年はかかるといふ学者もいる)、いま科学者の間で、合成生物学の一分野として、鏡像細菌を創出しようという研究が進んでいる。

鏡像生命体は既存の生命から生じることが不可能である。すべての生体分子を同時に鏡像異性体に置き換えることはできない。自然に発生した鏡像生命体に出会う可能性はきわめて低い。しかし科学技術の進歩により、実験室で鏡像生物を創出する可能性がある。

そして広範囲の検討の結果、「鏡像細菌の合成可能性については当初不確実だったが、技術進歩により実現可能」と結論付けている。

#### ●鏡像細菌のどこが問題か

鏡像最近のもつ潜在的危険性について、提言はこう書いている。

①我々の分析によれば、鏡像細菌は多くの免疫機構を回避し、ヒト・動物・植物に致死的な感染を引き起こす可能性がある。

②ファージや他の捕食者からの捕食を回避しやすく、環境中での拡散を促進するだろう。鏡像細菌が多くの生態系に侵入種として作用し、人間を含む植物・動物種のかんりの割合に広範な致死性感染を引き起こすシナリオを排除できない。宿主範囲が狭く限定された生態系のみには侵入可能な鏡像細菌であっても、前例のない不可逆的な被害をもたらす可能性がある。

#### ●鏡像細菌を生物学的に、物理的に封じ込めることは可能か

鏡像細菌ができたとして、果たしてそれを制御できるだろうか。提言では次のように検討して、有効な封じ込めはできないと結論している。

——これらのリスクを低減するため、バイオ封じ込めとバイオセーフティの手法が提案される可能性がある。①科学者は、自然界に存在しない分子への依存性（合成栄養要求性）を設計することで、意図的に鏡像細菌を機能不全に陥らせ、管理された実験室環境外での増殖を防ぐ安全策を講じることができる。しかし、進化や人為的ミスによってこれらの安全策から逃れる可能性は残る。複数の栄養要求性を導入すれば逸脱の可能性は低減されるが、完全に排除することはできない。物理的封じ込め手法も用いられるが、人的ミスや機器故障により、高封じ込め施設であっても実験室事故は一定頻度で発生している。

②たとえ制御された実験室環境外では増殖できない鏡像細菌を作成できたとしても、それは安全とは言えない——つまり、過失や意図的な悪用による大規模な被害を永久に防ぐような形で恒久的に制御されるわけではない。生物封じ込めされた鏡像細菌が一度作成されれば、それを安全対策のない状態に改変することは比較的容易である。鏡像細菌の構築手法は、様々な（おそらく安全装置のない）鏡像細菌を追求する他者によっても複製される可能性がある。

③鏡像細菌に有効な抗生物質、鏡像細菌に耐性を持つように設計された作物、鏡像細菌に感染するウイルス（ファージ）などの対策は、鏡像細菌が地球規模の生態系全体に拡散するのを阻止または逆転させるには十分ではなく、その結果生じうる許容できないほどの人命の損失や不可逆的な生態学的変化を防ぐことも極めて困難であると

思われる。これらの対策の主な課題は、生態圏全体に十分な規模で展開できず、野生環境における鏡像細菌の拡散と進化的多様化を防止・阻止できない点にある。したがって、潜在的に甚大な被害のほんの一部しか防げないであろう。

果たして鏡像細菌創出を進める価値はあるだろうか。

——鏡像細菌の創出による予測可能な利益は限定的である。鏡像生体分子には追求する価値のある科学的・治療的応用可能性が存在するが、鏡像細菌がそれらの製造に役立つ可能性はあるものの、こうした分子は他の手段でも製造可能である。より推測的な観点では、鏡像細菌は生細胞治療薬の基盤として追求されるかもしれないが、ここでも代替手段が存在する。鏡像細菌創出の潜在的风险は、比較的限定的な潜在的利益によって正当化できない。

こうして提言は次のように結論している。

——鏡像生体体が以上に述べてきたような並外れた危険をもたらさないという確固たる証拠が示されない限り、鏡像細菌やその他の鏡像生体は、たとえ生物封じ込め対策が施されたものであっても、作成されるべきではないと我々は考える。したがって、鏡像細菌の創出を目的とした研究を許可すべきではなく、資金提供者はそのような研究を支援しないことを明確にすることを推奨する。また、鏡像細菌の創出を試みる者が、科学的に困難で費用と時間を要する複数の段階によって阻害され続けるよう、関連技術の一部に対するガバナンスも検討すべきである。

（村上茂樹、会員）

# 広がるRNA操作とその危険性

## ◎RNA操作とジャガイモとワクチン

いま増えている技術の代表のひとつが、RNA操作である。これまで遺伝子操作というと、遺伝子組み換え、ゲノム編集など、DNA操作が主流だった。ところが、ここに来てRNA操作の応用が広がっている。それを象徴するのが、新型コロナウイルス感染症で登場した、メッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンである。しかし、RNAはDNAと異なり、種類も多く、働きも複雑であり、未知数のところが多い。その操作技術は、始まったばかりであり、その効果も危険性がいまだに確定せず、一步使用法を間違えると、危険性も大きいといえる。

RNAの本格的な利用は、RNA干渉法（RNAi）による遺伝子組み換え作物の作成から始まった。RNAiは、標的とする特定の遺伝子の働きを阻害する技術である。遺伝子の働きは、DNAにある遺伝情報がmRNAに写され、そのmRNAに転写された情報に基づき、トランスファアーRNAの働きでアミノ酸をつなげ、そのアミノ酸がつながったものがたんぱく質である。すなわちDNAの情報はたんぱく質を作り出す。これが遺伝情報の基本的な流れであるが、RNAiは、加工したRNAを用いてmRNAの段階で遺伝情報の伝達を妨げ、たんぱく質ができないようにする方法である。いわば途中で妨げる方法

である。

このRNAiを用いたジャガイモが米国で開発され、栽培され、二〇一七年に日本でも流通が承認された。このジャガイモは、米国のシンプロット社が開発し、最初に開発されたのは、加熱した際に生じる発癌物質アクリルアミドを低減したものである。その後新たに、ジャガイモが硬いものにぶつかった際に、打撲の部分が黒ずむのを低減した性質がつけ加えられたものが新たに承認された。

この間、RNA操作が広がっている。そのきっかけとなったのが、新型コロナウイルスとして開発されたメッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンの登場である。これまでのワクチンは、弱毒ウイルスや死んだウイルスを用いるなど、ウイルスやその一部を用いてきた。mRNAワクチンは、新型コロナウイルスのスパイクたんぱく質（細胞に侵入するための突起）を作り出すmRNAを脂質ナノ粒子でくるんだものである。mRNAは人工合成して作りだす。そのスパイクたんぱく質が体内に入ると抗原となり、抗体（抵抗力）を誘発する。抗体があらかじめできることで、ウイルスに感染した際に、すでにそのウイルスを攻撃する準備ができており、ワクチン効果が発揮できるというのが、その原理である。

mRNAは合成が容易であり、多様なタイプを開発しやすく、量産

しやすいところに特徴がある。そのため今後、インフルエンザ・ワクチンなどのワクチンの開発や製造に、この方法が用いられることになり、ワクチンの開発や製造の主流になる可能性が強まっている。また大量の脂質ナノ粒子に包んだ大量のmRNAを用いるため、さまざまなワクチンを一緒に混合して接種することも容易になる。

このmRNAワクチンの新たな市場として、いま注目されているのが、動物に用いるワクチンの開発である。鳥インフルエンザや豚熱など家畜の感染症への使用が進んでおり、今後、ワクチン開発の主力になる可能性がある。RNA利用に弾みがついた形となった。

### ◎RNA農業の登場

このRNA利用で、いま最も注目されているのが、化学農薬に代わり開発が活発化してきたRNA農薬である。ネオニコチノイド系殺虫剤など化学農薬が、安全性の問題で徐々に使い難くなり、それに代わるものとして農薬メーカーが、主に殺虫剤で開発を進めている。この農薬もまた、RNA干渉法(RNAi)を用いている。すでにドイツのバイエル社、BASF社、スイスのシンジェンタ社などの多国籍農薬企業が、この農薬の開発を進めており、すでにジャガイモの害虫コロラドハムシを対象にした殺虫剤などが開発されている。

いま開発が進んでいるRNA農薬の殺虫剤は、アポトシス(突然死)遺伝子を働かせるようにしている。生物には必ずと言っていいほど、このアポトシス遺伝子がある。しかし、この遺伝子が働いて突然死を起こしては大変である。そのためこの遺伝子を働かせない遺伝子がある。それをアポトシス阻害因子といい、壊すのはこの遺伝子の働きである。突然死が起きないよう重要な働きをしている、この遺

伝子を壊すと、突然死が起き、殺虫剤として機能させることができる。この突然死遺伝子は人間を含めて多くの生物が共通して持っているものであり、予想もつかないところで、突然死が発生するなど、この農薬の安易な使用拡大は、生物災害という取り返しがつかない大きな災害につながる危険性がある。

日本でも、このRNA農薬の開発が進められている。すでに味の素の研究グループが、このRNA農薬の量産系を確立し、事業化に向けて農薬企業との連携に動き始めたということが報道されている。最も積極的に開発を進めているのが、味の素ともつながっている基礎生物学研究所で、同研究所の新美輝幸教授らの研究チームが、ナス科植物の害虫ニジユウヤホシテントウで研究を進めており、アポトシス阻害因子遺伝子の二本鎖RNA(dsRNA)を経口投与して効果を確認したとしている。

このRNA農薬について、多くの科学者から懸念の声が聞かれる。米国農務省の農業研究局の研究者は「RNA農薬の安全性を評価するのは現行の短期間の試験ではなく、生物の寿命の長さで影響を見る長期試験が必要である」とする報告を発表している。特に問題なのが、RNA農薬を散布した場合、標的の害虫のみならず、ミツバチなどの益虫や、人間も含む動物の遺伝子まで阻害し、害を及ぼすのではないかと、という懸念である。死に至らないまでも、繁殖に必要な遺伝子を抑制してしまうなど予期せぬ影響が起き得る。

このように化学農薬からバイオ農薬への動きが加速しているが、RNA利用はまだ歴史が浅く、本格化してまで二〇年前後である。またRNAは、DNAに比べて種類も多く、複雑な働きをしており、安易な応用はとて危険である。(天笠啓祐、会員)

## 地球温暖化防止のウソ・ホント

環境学者・東京農工大学名誉教授・瀬戸昌之さんの講演を最近聞いて、感想、まとめを書いたので、転載させていただきます。

11月10日から21日まで、気候変動に関するCOP30会議がブラジルで開かれています。トランプ大統領がいくら地球温暖化は起きていないと言い、国連が進めてきた気候変動対策を詐欺だと言っても、危険な暑さの夏を4カ月も過ごしてきた私たちは地球の自然環境をもうこれ以上悪化させてはいけない待ったなしの状態に達していると実感しています。

### 不公正・不適切な電力対策

\*各家庭から徴収した税金の使い道

電力開発促進税が1974年から徴収されています。家庭の電気料金の2%がそれに当てられ、年間総額4000〜5000億円になります。このほとんどが原発促進に使われ、その多くが使途不明、不当支出とのこと。家庭の電気料金は産業よりはるかに高額に設定されているにもかかわらず、私たちは何も知らされていないのです。

原発立地地域特措法というのがあります。原子力発電施設の周辺地域の防災対策と生活環境に配慮し産業の振興を目的とした法律です。原発のある地域にばらまかれていましたが、今年8月29日、そ

の支援を半径10 km圏内から30 km圏内に拡大することを内閣府で決定しました。福島第一原発事故を受けてのことです。被災範囲は予想を超えていましたし、いまだに解決していません。避難計画も広範囲に広げられましたが、被害を被る想定範囲も広げられ、以前よりも多くの人の合意を得るためにばらまきの範囲を広げています。原発は立地の点でもたくさん費用がかかっています。

お話を聞いて、原発の問題点を整理し直してみました。

①原料のウラン採掘では環境破壊が行なわれています。開発途上国だったり、アメリカ合衆国では先住民の居住地域だったりして、忘れられがちです。日本でも採掘場だった岡山県と鳥取県の間にある人形峠の問題は放置されたままです。「国連科学委員会は、原子力開発による人類の最大の被曝源は、原発そのものでも、再処理工場や高レベル廃棄物でもなく、ウラン鉱山の鉱滓にあることを、すでに指摘している。」(京都大学複合原子力科学研究所より)

②事故が人々の生活にもたらす甚大な犠牲は福島第一原発の事故を見ても明らかです。

③原発労働者の被爆。事故後の処理でもさらに被爆が続いています。

④核のゴミ処理の問題は最終処分場も見つからず、いまだに未解決です。

私たちは多くの犠牲の上に成り立つエネルギーを受け取ることはできないと考えます。

**\*電力供給の安定化を図るには**

電力消費量はボトム（冬の朝）とピーク（夏の午後）で2倍の差があるという事です。揚水発電の利用を欧米並みの10%にし（日本は3%）、蓄電池に貯留すれば電力供給が安定化し、出力が不安定だと言われている再生エネルギーの利用率を上げることができらるだろうということです。お話を聞いて、すでにあるものの利用を阻んでいることにも目を向けたいと思いました。

**\*電力の自由化について**

2016年の電力自由化後は地域を限定せず、どこからでも電力を買えます。自由化の際に新規の電気事業者を応援するために「再生可能エネルギー発電促進賦課金」というのができましたが、これは家庭が負担しています。一家庭の負担額は約1万2千円/年とのことです。再生エネルギーが増えるのは良いことですが、電気代負担が増えないように、なるべく節電し、オール電化など、電気を熱エネルギーに変えるような非効率なことはなるべく避けたいと思います。

**\*電力を自家生産、自家消費しよう**

送電線の分離独立が図られていない現状では送電線の使用料金は大手の電力会社の言いなりで、再生可能エネルギーの利用拡大を阻んでいます。また送電によるロスも生まれます。ソーラーパネルで

生まれた電気は家庭で消費し、余剰電力はバッテリーにためましようと先生は呼びかけています。そのことにも声を上げていきたいと思えます。

**京都議定書をクリアできるか？**

瀬戸先生は京都議定書で日本が削減するとしたCO<sub>2</sub>排出量約2000万トンは、森林を保持し、管理すれば、簡単にクリアできると数字で示しています。また、2050年までに「実質ゼロ」も夢ではないと。そのためには化石燃料を減らして再生エネルギーを開発し、実用化していかなければなりません。

森林環境税が2024年度から国民一人当たり年間1000円徴収されています。温暖化対策税2600億円と森林環境税の合計3200億円（年当たり）で日本の森林の半分の面積の間伐・枝打ちができるそうです。森林管理によりCO<sub>2</sub>削減を簡単にクリアできるのに、エコカー、エコ家電に補助金をつけ、企業に税金は横流しされています。古い家電を買い換えるのは節電になりますが、このことは心にとめておこうと思えました。

**電気自動車よりも水素燃料電池車（FC車）に**

瀬戸先生からのメッセージです。FC車の排ガスは水蒸気だけ、H<sub>2</sub>は送電線を使わずに配送できる。再生可能エネルギーで水を分解して燃料にすれば、化石燃料の争奪戦が起らずに、国際平和がもたらされる。そう願いたい。

（洪美珍、会員）

DNA 問題研究会秋のシンポジウム「731 部隊を改めて振り返る」

# 731 部隊・石井四郎とは何者か？

講師：阿部海 氏

戦後 80 年の今年、マスメディアではさまざまな戦争特集が組まれています。しかし、いずれも被害者の視点で、加害者の視点はありません。南京大虐殺、従軍慰安婦、中国での三光作戦、強制連行などアジア各地で繰り広げられた加害行為はタブー視されています。731 部隊についても同様です。忘れられつつある 731 部隊の実態を、部隊長の石井四郎の生い立ちから死に至るまでをたどりながら、見ていきます。

■日時：12 月 4 日（木）午後 1 時半

■テーマ：731 部隊・石井四郎とは何者か？

■報告：阿部海さん

■日時：2025 年 12 月 4 日（木曜日）13 時半～

■会場：東京ボランティア市民活動センター会議室（飯田橋駅セントラルプラザ 10 階）

■アクセス：JR 総武線・東京メトロ副都心線 飯田橋駅下車すぐ

■資料代：300 円

.....

## [報告者紹介]

阿部海さん 欧米に 7 年半を過ごし、帰国後は 731 部隊の英文資料の翻訳に携わってきた。訳書に「軍医・石井四郎」（花伝社）がある。現在、生物戦に関する別の本を訳している最中。

参考図書：「軍医・石井四郎」（ケネス・L・ポート著、阿部海訳、2025 年 2 月花伝社刊）

※ 申し込み：ZOOM 参加の方は事前申し込みが必要です。参加希望者は、名前、職業、電話番号、メールアドレス明記のうえ、12 月 3 日までに。（ZOOM は無料）

お申し込み：E-mail jreikochan@yahoo.co.jp

またはこちら→ <https://forms.gle/CvTSda3ZFjhUkV9g9>

アドレスに返信確認メールをお送りします。



■主催：DNA 問題研究会

〈事務局から〉

▽12月4日(木)にシンポジウム「731部隊を改めて振り返る」を開催します。「戦後80年」がまもなくおしまいに なりますが、80年前に侵略した中国大陸で日本帝国軍隊が行っていた蛮行について、今あらためて記憶に定着させ、きちんと考えたいと思います。「731部隊」「石井四郎」という名を忘れてはいけません。どれだけ人々の関心を呼びぶか、興味あるところ です。おりしも中国で映画「731部隊」が上映されていますが、日本ではほとんど報道されません。出来映えには賛否両論あるようですが……。

▽12月4日(木)にシンポジウム「731部隊を改めて振り返る」を開催します。「戦後80年」がまもなくおしまいに なりますが、80年前に侵略した中国大陸で日本帝国軍隊が行っていた蛮行について、今あらためて記憶に定着させ、きちんと考えたいと思います。「731部隊」「石井四郎」という名を忘れてはいけません。どれだけ人々の関心を呼びぶか、興味あるところ です。おりしも中国で映画「731部隊」が上映されていますが、日本ではほとんど報道されません。出来映えには賛否両論あるようですが……。

ち上げられていたのもつかの間、台湾有事をめぐる国会の答弁内容が原因で大きな日中問題に発展している。右派論壇や政治家は、神戸の総領事を追放しろとか、答弁撤回の必要はないなどと、高市側にたつて煽りに煽つて有頂天だが、高市発言の内容が日中共同声明などで踏襲してきた内容を逸脱しているのは、一読すれば明らかで、小生でさえ、そんな解釈は聞いていないぞと思つたほどであるから、こっそりとか公然とかはともかく撤回や謝罪に近いことをして、矛を収めてもらうしかないだろうに、テレビやマスコミの多くは火に油を注いでいる。野党もたらしめない。そしてなによりも高市の人気

中になったものである。わずか数日前には米軍基地で軍人を前にしてトランプの横で満面に笑みを浮かべてぴょんぴょんと飛び跳ねていたのが嘘のようではある。▽さらにこの人は非核三原則堅持にも手を付けたらしい。コアなファンは大喜びだろうが、彼女に国の舵取りをまかせるのは、大変危険だと思つ。▽そうこうするうちに、新潟県知事が原発の運転再開を認めららしい。山上さんが安倍晋三射殺事件の裁判で証言する。そしてなんとニューヨーク市長には移民、イスラム教徒、民主社会主義社のゾーラン・マムダニ氏が当選。来年の米中間選挙、そして3年後の大統領選が俄然楽しみとなった。よいお年を(や)

〈編集後記〉

▽トランプが就任して世界中を振り回してまもなく一年が過ぎる。この間に日本では自民党が選挙で敗れ、公明党が離れて日本維新の会が与党となった。ガラスの天井を割って高市早苗氏が内閣総理大臣となり、8割を超す支持に支えられ、トランプ大統領との会談が大成

つた。台湾有事をめぐる国会の答弁内容が原因で大きな日中問題に発展している。右派論壇や政治家は、神戸の総領事を追放しろとか、答弁撤回の必要はないなどと、高市側にたつて煽りに煽つて有頂天だが、高市発言の内容が日中共同声明などで踏襲してきた内容を逸脱しているのは、一読すれば明らかで、小生でさえ、そんな解釈は聞いていないぞと思つたほどであるから、こっそりとか公然とかはともかく撤回や謝罪に近いことをして、矛を収めてもらうしかないだろうに、テレビやマスコミの多くは火に油を注いでいる。野党もたらしめない。そしてなによりも高市の人気

中になったものである。わずか数日前には米軍基地で軍人を前にしてトランプの横で満面に笑みを浮かべてぴょんぴょんと飛び跳ねていたのが嘘のようではある。▽さらにこの人は非核三原則堅持にも手を付けたらしい。コアなファンは大喜びだろうが、彼女に国の舵取りをまかせるのは、大変危険だと思つ。▽そうこうするうちに、新潟県知事が原発の運転再開を認めららしい。山上さんが安倍晋三射殺事件の裁判で証言する。そしてなんとニューヨーク市長には移民、イスラム教徒、民主社会主義社のゾーラン・マムダニ氏が当選。来年の米中間選挙、そして3年後の大統領選が俄然楽しみとなった。よいお年を(や)

DNA 通信 169号 2025年11月21日発行

カンパのお願い  
当会では常時ご寄付をお受けしております。  
今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

振替口座 名義:ディーエヌエーモンダイケンキュウカイ  
口座番号:00140-8-605520

他機関から送金いただく場合

- 1 金融機関: ゆうちょ銀行
- 2 金融機関コード: 9900
- 3 店番(支店コード): 019
- 4 預金種目: 当座
- 5 店名(支店名): 〇一九(漢数字)
- 6 口座番号: 0605520